



# 文化財新聞 (第一弾)

魅力再発見!



発行日 2023年7月1日  
発行者 まなひあい中学校  
新聞部

大河ドラマ「どうする家康」が放送されている中、長久手の歴史や文化財が注目されています。また、現在、市は古戦場公園再整備事業を進めています。文化財新聞と題して、3か月にわたり、長久手の歴史や文化財、古戦場公園再整備事業について紹介します。

生涯学習課  
☎56-0627

## 「時代の流れの中で姿を消すかもしれない古民家や

### 古民家が激減! 古民家が残り9棟に!

長久手市でも都市化や生活様式の変化で、昔から伝わっている大切な文化財の継承が難しくなっています。江戸・明治・大正時代に建てられた古民家も現在は9棟に減ってしまいました。



### 市内最古級の古民家

左は、岩作石田地内にある江戸時代後期～末期に建てられた市内最古級の古民家です。尾張、西三河地方の伝統的な農家住宅の形式がよく残っている、県内有数の歴史的建物です。

▲古民家の外観



▲古民家の内側

この古民家には、2本の太い柱と梁があり、これらが神社の鳥居に似ていることから鳥居建て形式と言われています。この構造が残っている古民家は、歴史的価値がある建造物として、大切に保存していく必要があると言われています。

### ワークショップ、やっています。

多くのアイデアを集め、魅力的な場所とするため、定期的にワークショップを開催しています。昨年度もこの古民家でワークショップを開催し、大学生や外国人を含む多くの参加者は、自宅との違いに驚くなど、古民家に興味津々の様子でした。



▲大学生とのワークショップの様子



▲外国人とのワークショップの様子

### 古戦場公園再整備事業 市民ワークショップ開催!

この古民家は、2023年度に解体、2024年度に古戦場公園に移築予定です。今後、市民のみなさんと一緒に、解体・移築工事の一部作業を行っていくためのワークショップを開催します。

時 7月30日(日)10:00~ 場 文化の家1階 展示室

内 古民家の移築工事実行委員の募集および説明

申 7月28日(金)までに生涯学習課窓口または電話で申込。

### 驚き発見!

この古民家は、1973年3月に愛知県教育委員会が発行した『愛知の民家』で、歴史的な価値がある建造物として県内に現存した41棟の内の一つに選ばれています!

## お祭り、次世代に継承できるのか?!

### 祭りの担い手不足 次世代に継承していくためには?

長久手市を代表する無形民俗文化財として「警固祭り(オマント)」「棒の手」があります。

警固祭りは火縄銃の発砲が注目されがちですが、お祭りは収穫感謝のために社寺に飾り馬を奉納することを目的としています。

とても盛大で勇壮なイベントですが、長久手市の都市化に伴い、目玉の火縄銃が発砲できる場所も少なくなっていることや担い手不足が課題です。



▲飾り馬奉納の様子



▲棒の手奉納の様子

### インタビュー してきました!



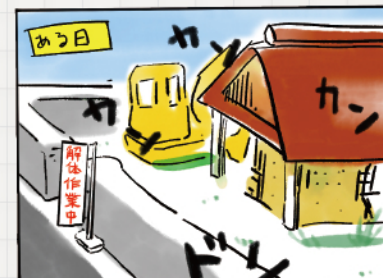
長久手市棒の手保存会  
会長 井藤 繁之さん

長久手の棒の手は、400年以上前から受け継がれ、昭和31年に愛知県無形民俗文化財に指定されました。毎年8月頃、祭りに向けて各地区で棒の手の練習が始まりますが、最近は小中学生も塾などで練習に参加する人が少なく、担い手が不足しています。また、経験者が市外へ流出し、継承する若い人が少なくなったのも、担い手不足の一因です。私たちの祖先が残してくれた貴重な無形民俗文化財を後世に伝えるために、寄贈いただいた衣裳を市が保存貸与しています。今後も、長久手市全体で一丸となって棒の手の継承に取り組んでいかなければならないと思います。

### 驚き発見!

長久手市内には、警固祭りで使用される火縄銃が600丁以上あると言われています!

「古民家好きなのに…」



◎てづかともこ

